

# その人らしく生活に色を 私がめざす自立支援のカタチ

久島香織 [きゅうしま・かおり]

介護老人保健施設ひむか苑（宮崎県）

## 施設紹介

自然豊かな宮崎県の中央から、やや南東に位置する宮崎市は農業と観光が主要産業です。観光地である青島ビーチパークは近年再開発が進み、サーフィンをはじめとしたマリアクティビティを中心に県内外からの観光客で賑わっています。2023年3月現在、人口は約40万人、高齢化率は28.93%、うち要介護認定者数が約2万人となっています。

そのような宮崎市にある、介護老人保健施設ひむか苑の入所定員は132名（うち認知症専門棟30名）、通所リハビリの定員は45名です。宮崎県第1号の老健施設として1988年の開設以来、理念である「夢・やすらぎ・笑顔」を掲げ、超強化型老健施設として積極的なICT・IOTの活用、認知症ケアの発信等、地域に根差した老健施設をめざし、多職種が協力して日々のケアを提供しています。

## はじめに

私は急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟勤務を経て、2020年4月より当施設に異動となりました。はじめに配属されたのは入所棟でしたが、病院勤務しか経験したことのなかった私は、訓練時間や期間の違い、入所の目的がそれぞれ違うことに戸惑ったことをいまでも鮮明に覚えています。その一方で、多職種との関わりは病院時代よりも実感することができ、少しずつ老健施設の役割を認識できるようになったと思います。そして2023年4月より通所リハビリにて勤務しています。

## 業務について

通所リハビリでの業務は、ご利用者のリハビリや

日常生活動作の評価、送迎、リハビリ会議や担当者会議への出席などがあります。業務では、ご家族やケアマネジャーと接したり、実際の生活場面を見られる機会が多くあり、サービスの種類や加算について覚えたりと日々勉強になることばかりです。また地域に根差した老健施設をめざす当施設の取り組みとして、近隣住民への体操教室や出前講座を行っており、作業療法士として私も講師をしています。

## 作業療法士の専門性と視点で考えていること

通所リハビリで働くなかで、作業療法士として何ができるのかをよく考えています。私は作業療法士が「コンピュータ技術が進んでも生き残れる職業」の上位であるというオックスフォード大学の研究報告が印象的でたびたび思い出すことがあり、自分のなかでは納得しています。作業療法の目的は広く、心身機能の向上・維持を含めた生活障害の軽減、日常生活動作といった応用的能力、社会参加や就労などの社会適応能力、人的支援や物理的環境の調整・相談・指導など多岐にわたります。

「作業 (occupation)」とは、人が生きて行う目的活動すべてを指します。作業療法士は、それを「手段としての作業」として治療のために用いたり、「目的としての作業」として対象となる人の能力を引き出したり役割達成のために用いたりします。そして常に作業分析をして提供しています。作業療法士の考えに基づいて提供する作業は、AIやロボットが仕事をすることが増えていく今後においても、代わることはできないだろうと思っています。例えば、私は高齢者を対象とするときに普段からリアリティ・オリエンテーションを意識しています。午後の活動でリハビリスタッフによる体操の時間がありますが、日付の確認以外